

近代倉敷の文学者年表

江戸					1868 明治	1,912 大正	1,926 昭和	1,989 平成
1,600	1,650	1,700	1,750	1,800	1,850	1,900	1,950	2,000
<p><b>叙風</b> (じょふう) ██████████  元禄俳壇指導者。俳諧を芭蕉に学ぶ。倉敷清鏡寺の住職。寛文6年(1,666)～延享3年(1,746)。作品「蕃橙集」。元禄11年ごろ備中下庄宝福寺の境内、南瓜庵に10年住む。備中八田部。</p>								
<p><b>寂巖</b> (じゃくごん) ██████████  書家、サンスクリットの権威。元禄15年(1,702)～明治8年(1,771)。作品「悉曇字記」3巻、「大観悉曇稽古録」「梵字雑記」。宝島寺住職。足守</p>								
<p><b>澄月</b> (ちょうげつ) ██████████  平安歌壇の四天王の一人(1,714～1,798)、京都における和歌の四天王(澄月、芦庵、大愚、蒿蹊)</p>								
<p><b>岡 鶴汀</b> (おか かくてい) ██████████  倉敷漢詩壇の大宗。元文1年(1,736)～文化8年(1,811)。作品「鶴汀唸稿」3巻。倉敷村。</p>								
<p><b>井上 素堂</b> (いのうえ そどう) ██████████  天明歌壇の先達。笙もした。元文5年(1,740)～享和3年(1,803)。作品「杜の下草」「泣岐抄」(随筆集)。倉敷村。</p>								
<p><b>良寛</b> (りょうかん) ██████████  玉島円通寺の聖僧。1,400を越す和歌、500に近い漢詩を残す。宝暦8年(1,758)～天保2年(1,831)。越後(新潟県)出雲崎。約20年円通寺で修業。</p>								
<p><b>井上 端木</b> (いのうえ はしき) ██████████  歌人。画人。法橋(僧の位、法眼に次ぐ位)。多芸で笛、能、蹴鞠もした。明和5年(1,768)～天保11年(1,840)。作品「鄙塵集」「塵塚」「鶴の画」。東町。</p>								
<p><b>風牀・教存</b> (ふうしょう) ██████████  漢詩人。倉敷観音寺第35世。安永8年(1,779)～天保2年(1,831)。作品「風牀小詩」「続連球詩格」「風牀詩稿」。讃岐国三野郡寺家村。</p>								
<p><b>三宅 嫩緑</b> (みやけ どんろく) ██████████  俳諧宗匠。天明6年(1,786)～明治4年(1,871)。作品「嫩緑集一卷」。連島西之浦。</p>								
<p><b>三島 中洲</b> (みしま ちゅうしゅう) ██████████  二松学舎の創設者。東京大学教授。東宮侍講。天保元年(1,830)～大正(1,919)。作品「中洲文稿」「愚得録」「孟子私録」。窪屋郡中洲村中島</p>								
<p><b>川田 甕江</b> (かわた おうこう) ██████████  明治の文宗。天保元年(1,830)～明治29年(1,896)。作品「随筆紀程」「楠氏考」「得閑瑠録」。阿賀崎(玉島)新町</p>								
<p><b>衣笠 豪谷</b> (きぬがさ ごうこく) ██████████  詩書画において明治の三絶。嘉永3年(1,850)～明治30年(1,897)。「読課余禄」「清国様式人工府解卵図解」「勸農千字文」。白楽市村。</p>								
<p><b>田辺 碧堂・為三郎</b> (たなべ へきどう) ██████████  明治、大正、昭和の三代にわたる漢詩壇の第一人者。衆議院議員。元治元年(1,864)～昭和6年(1,931)。作品「碧堂絶句」「凌滄集」。長尾町。</p>								
<p><b>守屋 漸</b> (もりや すすむ) ██████████  歌人。県下の初音会その他、若狭、豊前小倉、讃岐等各地の歌会を指導。門人600人。明治5年(1,872)～昭和14年(1,929)。酒津村。</p>								
<p><b>河東 碧梧桐</b> (かわひがし へきごどう) ██████████  新傾向俳句のパイオニア。正岡子規の門弟。玉島沙美海浜院で俳三昧。明治6年(1,873)～昭和12年(1,937)。作品「新傾向俳句集」。愛媛県松山。</p>								
<p><b>平松 措大</b> (ひらまつ そだい) ██████████  俳人。高校教諭。明治7年(1,874)～昭和34年(1,959)。月刊「さざり」創刊。昭和34年県文化章受賞。詩碑が鷺羽山山頂付近他。岡山市</p>								
<p><b>薄田 泣菫</b> (すすきだ きゅうきん) ██████████  詩人。随筆家。明治10年(1,877)～昭和20年(1,945)。作品「暮笛集」「しらたま姫」「二十五絃」「白羊宮」「茶話」「草木蟲魚」。連島町連島。</p>								

**本山 荻舟** (もとやま てきしゅう)

大衆作家。報知新聞記者。食通。明治 14 年(1,821)～昭和 33 年(1,958)。作品「名人崎人」「近世剣客伝」「飲食日本史」「飲食辞典」等。藤戸町天城。

**川田 順** (かわた じゅん)

第一回芸術院賞歌人。実業家。川田甕江の三男。明治 15 年 (1,822) ～昭和 41 年 (1,966)。作品「鷺」「国初聖蹟歌」、「新古今和歌集の鑑賞」。玉島。

**中塚 一碧楼** (なかつか いっぺきろう)

俳人。自由律俳句の先駆者。碧梧桐の門下。明治 20 年 (1,887) ～昭和 21 年 (1,946)。「海紅」「俳句日本」を発行。作品「はかぐら」。玉島勇崎。

**太宰 施門** (だざい しもん)

仏文学者。京都大学名誉教授。明治 22 年 (1,889) ～昭和 49 年 (1,974)。作品「バルザック」「仏蘭西文学史」(日本最初の仏文学通史)。児島柳田村。

**井出 訶六** (いで かるく)

朝日新聞小説入選作家。明治 31 年 (1,898) ～昭和 3 年 (1,928)。作品「新しき生へ」「十字路の乙女」。文学碑が円通寺公園に。玉島勇崎。

**武田 麟太郎** (たけだ りんたろう)

プロレタリア作家。明治 37 年 (1,904) ～昭和 21 年 (1,946)。「文学界」「人民文庫」を創刊、作品「暴力」「日本三文オペラ」。父親が倉敷市福田。

**松田範祐** (まつだ のりよし)

児童文学。童話作家。昭和 15 年(1,940～)。日本童話会賞受賞、毎日新聞児童小説入賞。作品「チボリの国の物語」、「きつねくんのてじな」等。西富井在住。

**和田英昭** (わだ ひであき)

児童文学。童話作家。昭和 18 年(1,943～)。野間児童文芸賞、講談社児童文学新人賞受賞。作品「地図からきえた町」(山のあなた)等。福田町古新田在住。

**川越文子** (かわごえ ふみこ)

児童文学。童話作家。昭和 23 年 (1,948～)。作品「お母さんの変身宣言」「かこちゃん」「坂道は風の通り道」等。玉島長尾。

**八束澄子** (やつか すみこ)

児童文学。童話作家。昭和 25 年(1,950～)。日本童話会新人賞、日本児童文学者協会賞受賞。作品「青春航路ふえにつくす丸」「松ぼっくり」等。五日市在住。

**石井敏弘** (いしい としひろ)

推理小説作家。昭和 37 年 (1,962～)。江戸川乱歩賞受賞。作品「風のターンロード」等。児島由加在住。

**小川洋子** (おがわ ようこ)

作家。昭和 37 年 (1,962～)。海燕新入文学賞「揚羽蝶が壊れる時」。芥川賞「妊娠カレンダー」。読売文学賞・本屋大賞「博士の愛した数式」等。岡山市出身  
昭和 61 年 10 月 7 日～平成 2 年 9 月 21 日まで倉敷市鶴の浦、平成 2 年 9 月 21 日～平成 14 年 3 月 1 日まで玉島乙島 1815 番地 13 (芦屋市に転出)